

HSCCL

互換性マトリックス

この文書では以下の項目について説明しています。

- 一般的な制限事項
- 仮想アプライアンスの互換性マトリックス
- **AWS** への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- オンプレミスデータセンターから **vCloud Director** への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- **vCloud Director** から **vCloud Director** への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- **Azure** への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- **Azure / Azure Stack** から **Azure / Azure Stack** への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- **HUAWEI CLOUD** への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- **Orange Recovery Engine** への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- **VMware** 仮想マシンへの物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- **Resiliency Platform Data Mover** を使用したオンプレミスデータセンターへの **VMware** 仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- サードパーティレプリケーション技術を使用した仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- サードパーティレプリケーション技術を使用したアプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- **InfoScale** アプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックス

- [NetBackup](#) イメージを使用したディザスタリカバリの互換性マトリックス
- [NetBackup Cloud Catalyst](#) を使用した仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス
- [Orange Recovery Engine](#) への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- [AWS](#) への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- [Azure](#) への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- [vCloud Director](#) への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス
- ブラウザの互換性マトリックス
- [Veritas Resiliency Platform](#) コンポーネントのバージョンの互換性

一般的な制限事項

「一般的な制限事項」に、[Resiliency Platform](#) を使用する 1 つ以上の環境でサポートされない機能を一覧表示します。

表 1-1 一般的な制限事項

サポートされない機能	サポートされる機能	適用先
VMware 耐障害性 仮想マシン		サードパーティのレプリケーションを使用する VMware 環境 Resiliency Platform Data Mover レプリケーションを使用する VMware 環境
共有されている RDM (Raw Device Mapping)		Resiliency Platform Data Mover レプリケーションを使用する VMware 環境
共有されている RDM (Raw Device Mapping)		Resiliency Platform Data Mover レプリケーションを使用する Hyper-V 環境

サポートされない機能	サポートされる機能	適用先
EFI (Extensible Firmware Interface) が有効化されている VMware の場合: ゲスト内レプリケーションはサポートされません。 Hyper-V 上の EFI が有効化された仮想マシンの場合: Veritas Resiliency Platform Data Mover の使用はサポートされません。	EFI (Extensible Firmware Interface) が有効化されている仮想マシンに対しては、サードパーティのレプリケーション、または VIO ベースのレプリケーションがサポートされます。 Hyper-V 上の EFI が有効化された仮想マシンの場合: サードパーティのレプリケーションのみがサポートされます。	Resiliency Platform Data Mover レプリケーションを使用している VMware または Hyper-V 環境、あるいは NetBackup を使用した AWS クラウドデータセンターへの VMware 環境のリカバリ。
32 ビット版オペレーティングシステム		すべての環境

仮想アプライアンスの互換性マトリックス

表 1-2 に、仮想アプライアンスの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-2 仮想アプライアンスの互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0
Hyper-V	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019

AWS への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-3 に、AWS への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-3 AWS への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0	RHEL 6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 SLES 12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019
Hyper-V	Windows Server 2012 R2、2016、2019	Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- AWS にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- AWS にリカバリする場合、地域に中国を指定できますが、認められていません。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。
- AWS 準仮想ドライバ (xen) が SLES 11.4 仮想マシンにインストールされている必要があります。
- AWS vm-import プロセスは RHEL 8 をサポートしません。

- SLES11 リリースバージョン 11.4 では、ENA ドライバのインストールはサポートされていません。
- VMware RDM ディスクは仮想モードと物理モードでサポートされます。
- Microsoft Windows と Linux の ENA フレーバーを選択する場合の制限事項は次のとおりです。
 - 世代の末尾が「a」の AMD プロセッサベースのインスタンスタイプ。例: (t3a.medium) は、Microsoft Windows の作業負荷には使用できません。
 - 世代の末尾が「d」のインスタンスタイプ。例: (m5ad.xlarge) は Linux の作業負荷には使用できません。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

オンプレミスデータセンターから vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-4 に、オンプレミスデータセンターから vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-4 オンプレミスデータセンターから vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter Server 6.0 U3、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2 ESXi 5.5 U3 U3 から 6.0 U3、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019
Hyper-V	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012、2012 R2

注意:

- vCloud Director 8.20、9.1、9.5 はサポートされます。

- vCloud Director にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- Linux 仮想マシンは、Hyper-V 仮想化技術ではサポートされません。
- PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- VMware Tools または OpenVM Tools (OpenVM Tools の 9.10 より前のバージョンの DeployPkg がある) は、作業負荷仮想マシン上にインストールする必要があります。
- リハーサル操作とリハーサルのクリーンアップ操作は、vCloud Director へのリカバリでサポートされません。
- NIC タイプ E1000E を使用する仮想マシンは、vCenter Server を追加せずに vCloud Director に VMware 仮想マシンをリカバリするユースケースではサポートされません。
- Hyper-V Server または vCenter Server を追加せずに仮想マシンが保護向けに構成されている場合、vCloud Director から実稼働 (オンプレミス) データセンターへのテイクオーバーはサポートされません。
- RDM ディスクは仮想モードと物理モードでサポートされます。
- Resiliency groups の開始と停止は、vCenter Server または Hyper-V Server を追加せずに vCloud Director に仮想マシンをリカバリするユースケースでサポートされません。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。

vCloud Director から vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-5 に、vCloud Director から vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-5 vCloud Director から vCloud Director への仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

クラウド技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
vCloud Director	8.20、9.1、9.5	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 Windows Server 2012、2012 R2、2019

注意:

- vCloud Director にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- リハーサル操作とリハーサルのクリーンアップ操作は、vCloud Director から vCloud Director へのリカバリではサポートされません。
- 退避プランは vCloud Director から vCloud Director へのリカバリではサポートされません。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。
- vCloud 9.x を搭載したスタンドアロン仮想マシンは、Resiliency Platform ではサポートされません。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

Azure への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-6 に、Azure への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-6 Azure への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019
Hyper-V	Windows Server 2012 R2、2016、2019	Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- Azure にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。
- VMware RDM ディスクは仮想モードと物理モードでサポートされます。
- Azure で RHEL 7.6 をサポートするには、最新のカーネルバージョンが必要です (例: 3.10.0-957.12.1el7.x86_64)。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

Azure / Azure Stack から Azure / Azure Stack への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

「[Azure / Azure Stack から Azure / Azure Stack への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス](#)」に、Azure から Azure への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-7 Azure / Azure Stack から Azure / Azure Stack への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

仮想化技術	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
Microsoft Azure クラウド	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012 R2、2016、2019

注意:

- Azure Ultra ディスクストレージはサポートされていません (プレミアム SSD、標準 SSD、標準 HDD などの他の永続的なディスクストレージはサポートされています)。
- Azure にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 管理対象外のディスクを備えた仮想マシンはディザスタリカバリでサポートされません。

p.3 の「[一般的な制限事項](#)」を参照してください。

p.25 の「[ブラウザの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

HUAWEI CLOUD への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-8 に、HUAWEI CLOUD への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-8 HUAWEI CLOUD への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3	RHEL 6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- HUAWEI CLOUD にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
 - UVP VMTTools ソフトウェアパッケージが Windows 仮想マシンにインストールされている必要があります。
 - PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
 - 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
 - EVS (エラスティックボリュームサービス) 対応の SCSI デバイスタイプはサポートされません。
 - Xen Hypervisor に基づく ECS タイプはサポートされません。
 - 大連 (中国北東部) 地域はサポートされません。
 - マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。
- p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

Orange Recovery Engine への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

次の表に、Orange Recovery Engine への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-9 Orange Recovery Engine への仮想マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0	RHEL 6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- Orange Recovery Engine にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- UVP VMTools ソフトウェアパッケージが Windows 仮想マシンにインストールされている必要があります。
- Windows 作業負荷仮想マシンの場合、PowerShell 2.0 は .Net 3.5 でサポートされ、PowerShell 3.0 は .Net 4.5 でサポートされます。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- EVS (エラスティックボリュームサービス) 対応の SCSI デバイスタイプはサポートされません。
- Xen Hypervisor に基づく ECS タイプはサポートされません。
- マルチパスは仮想マシン内ではサポートされません。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

VMware 仮想マシンへの物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-10 VMware 仮想マシンへの物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

サポート対象の物理マシン	VMware のサポート対象バージョン
RHEL 6.10、6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.6、7.7、8.0	vCenter Server 5.5 U3e、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、7.0
CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.6、7.7	ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0
SLES 12.3、12.4、15	
Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019	

注意:

- 物理マシンを VMware 仮想マシンにリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- Windows 作業負荷仮想マシンの場合、PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- VMware 仮想マシンへの物理マシンのリカバリでは、Resiliency Group の開始と停止はサポートされません。
- VMware 仮想マシンへの物理マシンのリカバリでは、共有ディスクはサポートされません。
- ソース上の複数のサブネットからターゲット上の単一のサブネットへの移行はサポートされません。
- レプリケーション DRL ディスクに必要な物理サーバーに 1 GB の空きディスクを追加する必要があります。

- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。

Resiliency Platform Data Mover を使用したオンプレミスデータセンターへの VMware 仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-11 に、Resiliency Platform Data Mover を使用したオンプレミスデータセンターへの VMware 仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-11 Resiliency Platform Data Mover を使用した VMware 仮想マシンのオンプレミスデータセンターへのディザスタリカバリの互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware	vCenter 6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3 ESXi 6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3	RHEL 6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、7.8、8.0、8.1 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、6.0、8.0 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- VMware RDM ディスクは仮想モードでサポートされます。
- vSAN Datastore 上に存在する仮想マシンの保護は、ESXi 6.5 以降でのみサポートされます。
- VMware 承認の Resiliency Platform Data Mover のレプリケーションフィルタについては、『[VMware 互換性ガイド](#)』を参照してください。
- vCenter Server のバージョンが VMware vSphere Hypervisor のバージョンをサポートしていることを確認するには、『[VMware Product Interoperability Matrices](#)』を参照してください。
- Resiliency Platform 3.5 以降、vCenter Server の構成で IPv6 ネットワークがサポートされています。

p.3 の「[一般的な制限事項](#)」を参照してください。

p.25 の「[ブラウザの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

サードパーティレプリケーション技術を使用した仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-12 に、サードパーティレプリケーション技術を使用してディザスタリカバリに使用される、VMware および Hyper-V 仮想マシンの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-13 に、仮想マシンで使用するサードパーティレプリケーション技術の互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-12 仮想マシンの互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン	サポート対象のゲストオペレーティングシステム
VMware [14]	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.0 U3、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、7.0	RHEL 6.10、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、7.8、8.0 CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、7.8、8.0 SLES 11.4、12.2、12.3、12.4、15 Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019
Hyper-V [12]、[13]	Windows Server 2012 R2、2016、2019	Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

表 1-13 仮想マシンのサードパーティレプリケーション技術の互換性マトリックス

レプリケーション技術	アレイソフトウェアとベンダーコンポーネントの API および CLI バージョン	ストレージモデル	VMware	Hyper-V
EMC SRDF [4]	EMC Solution Enabler 8.3 以前のバージョン	Symmetrics DMX、VMAX	サポート対象	サポート対象
NetApp SnapMirror [1]、[2]、[3]	ONTAP 7.x 以降 (NetApp 7 モード)、ONTAP 8.2.1、8.3.2、9.1 (NetApp クラスターモード)	NetApp FAS シリーズ	サポート対象	サポート対象

レプリケーション技術	アレイソフトウェアとベンダーコンポーネントの API および CLI バージョン	ストレージモデル	VMware	Hyper-V
Hitachi True Copy/Hitachi Universal Replicator	コマンド制御インターフェース (CCI) - 01-46-03/02	Hitachi USP、VSP	サポート対象	サポート対象
EMC RecoverPoint [9]、[10]、[11]	RecoverPoint 4.1、4.4.1、5.0、5.1	VMX/Symmetrix、VNX/CLARiiON、EMC Unity	サポート対象	サポート対象
HPE 3PAR リモートコピー [5]、[6]	V 3.1 および 3.2	N/A	サポート対象	サポート対象
HPE 3PAR リモートコピー [5]、[6]	V 3.3	N/A	サポート対象	サポート対象外
IBM XIV [7]、[8]	XCLI バージョン 4.1 から 4.8	N/A	サポート対象	サポート対象
IBM SVC [8] [19]	7.1 および 7.3	N/A	サポート対象	サポート対象
Hyper-V Replica	N/A	N/A	N/A	サポート対象

注意:

[1] Hyper-V は NetApp LUN でサポートされますが、NetApp CIFS はサポートされません。

[2] NetApp SnapMirror レプリケーション技術は、非同期モードでのみサポートされます。

[3] NetApp アレイからエクスポートされた NFS、FC LUN、および iSCSI ストレージがサポートされます。

[4] EMC SRDF レプリケーション技術は、同期モードと非同期モードでサポートされます。

[5] 非共有 RDM のみが HPE 3PAR リモートコピーでサポートされます。

[6] HPE 3PAR リモートコピーレプリケーション技術は、mirror_config ポリシーによる定期モードでのみサポートされます。

[7] Linux システムでは、IBM XIV コマンドラインインターフェース (XCLI) ユーティリティのバージョン 4.6 はサポートされません。

[8] Microsoft フェールオーバークラスタ環境での Hyper-V 仮想マシンによる IBM SVC および XIV レプリケーション技術の使用は認められません。

[9] VPLEX ストレージは EMC RecoverPoint ではサポートされません。

[10] 継続的なりモートレプリケーション (CRR) のみが EMC RecoverPoint でサポートされます。継続的なデータ保護 (CDP) と同時ローカルおよびリモート (CLR) レプリケーションはサポートされません。

[11] 共有および非共有の Raw デバイスマッピング (RDM) は EMC RecoverPoint でサポートされます。

[12] Hyper-V Server 上でサポートされる最小 PowerShell バージョンは 3.0 です。

[13] MSFoC (Microsoft Failover Cluster) 環境はサポートされます。

[14] VMware HA はサポートされます。

[15] 複数のアレイ技術のストレージによる組み合わせはサポートされません。

[16] 仮想マシンのレプリケートストレージおよび非レプリケートストレージの組み合わせはサポートされません。

[17] Hyper-V 仮想マシンのディザスタリカバリでのみ、RDM (Raw Device Mapping) によりマッピングされたレプリケート LUN はサポートされません。

[18] Resiliency Platform 3.5 以降、3PAR、RecoverPoint、NetApp SnapMirror エンクロージャの構成で IPv6 ネットワークがサポートされています。

[19] Metro Mirror はサポートされていません。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

サードパーティレプリケーション技術を使用したアプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-14 に、物理、VMware、および Hyper-V 環境でのアプリケーションの互換性マトリックスとサポート対象プラットフォームを一覧表示します。

表 1-15 に、アプリケーションで使用するサードパーティレプリケーション技術の互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-14 物理、VMware、および Hyper-V 環境でのアプリケーションの互換性マトリックスとサポート対象プラットフォーム

アプリケーション	バージョン	Linux プラットフォーム	Windows プラットフォーム
Oracle RDBMS [1]、[2]、[11]	11g r2 12C r1 19c	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、 7.0、7.1、7.2	サポート対象外
Microsoft SQL Server [3]	2012 2014	サポート対象外	Windows Server 2012 R2
カスタムアプリ	N/A	RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、 7.0、7.1、7.2	Windows Server 2012 R2

表 1-15 アプリケーションのサードパーティレプリケーション技術の互換性マトリックス

レプリケーション技術	アレインソフトウェアとベンダーコンポーネントの API および CLI バージョン	ストレージモデル
EMC SRDF [7]	EMC Solution Enabler 8.3 以前のバージョン	Symmetrix DMX、VMAX
NetApp SnapMirror [4]、[5]、[12]	ONTAP 7.x 以降 (NetApp 7 モード)、 ONTAP 8.2.1 以降 (NetApp クラスタモード)	NetApp FAS シリーズ
Hitachi True Copy/Hitachi Universal Replicator	コマンド制御インターフェース (CCI) - 01-46-03/02	Hitachi USP、VSP
EMC RecoverPoint [8]	RecoverPoint V4.1、4.4.1、5.0、5.1	VMX/Symmetrix、 VNX/CLARiiON、EMC Unity
HPE 3PAR リモートコピー [6]、[12]	V 3.1 および 3.2	該当なし
Oracle Data Guard	12c R2、19c	該当なし

注意:

[1] Oracle Data Guard は Data Guard Broker を使用する場合にのみサポートされます。

- [2] Data Guard によってレプリケートされた Oracle 12c R2 および 19c データベースは、検出ホストモードでサポートされます。
 - [3] MSSQL 2012 および MSSQL 2014 は AlwaysOn なしでサポートされます。
 - [4] NetApp アレイの場合、NFS および FC LUN のみがサポートされ、CIFS はサポートされません。
 - [5] NetApp SnapMirror レプリケーション技術は、非同期モードでのみサポートされます。
 - [6] HPE 3PAR リモートコピーレプリケーション技術は、mirror_config ポリシーによる定期モードでのみサポートされます。
 - [7] EMC SRDF レプリケーション技術は、同期モードと非同期モードでサポートされます。
 - [8] EMC RecoverPoint の場合、継続的なリモートレプリケーション (CRR) のみがサポートされます。継続的なデータ保護 (CDP) と同時ローカルおよびリモート (CLR) レプリケーションはサポートされません。
 - [9] VMware HA 環境はサポート対象です。
 - [10] Windows Server 上でサポートされる最小 PowerShell バージョンは 3.0 です。
 - [11] データベースユーザーの認証は、Oracle アプリケーションではサポートされません。
 - [12] リハーサル操作とリハーサルのクリーンアップ操作は、仮想マシンにマッピングされている raw ディスクにデータがある仮想マシン内のアプリケーションと、ファイバーチャネル経由で 3PAR RemoteCopy または NetApp SnapMirror を使用してレプリケートされたデータではサポートされません。
- p.3 の「[一般的な制限事項](#)」を参照してください。
- p.25 の「[ブラウザの互換性マトリックス](#)」を参照してください。
- p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

InfoScale アプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-16 に、InfoScale アプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-16 InfoScale アプリケーションのディザスタリカバリの互換性マトリックス

コンポーネント	バージョン	詳細
Veritas InfoScale Operations Manager 管理対象ホスト	7.2 以降	Linux と Windows でサポート スタンダードオンと高可用性構成でサポート

コンポーネント	バージョン	詳細
Veritas Cluster Server (VCS) [1]、[2]	6.0 以降	AIX、Linux、Solaris、および Windows オペレーティングシステムでサポートされます。

注意:

[1] すべての VCS サポート構成は、アプリケーションとのレプリケーション技術の両方でサポートされます。

[2] GCO フェールオーバーポリシーは、手動で実行する必要があります。

p.3 の「[一般的な制限事項](#)」を参照してください。

p.25 の「[ブラウザの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

NetBackup イメージを使用したディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-17 と表 1-18 に、NetBackup イメージを使用したディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-17 仮想化技術の互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0

表 1-18 NetBackup コンポーネントの互換性マトリックス

コンポーネント	バージョン
NetBackup マスターサーバー [2]	8.1.2、8.2、8.3
NetBackup Appliance	Appliance 3.1.2、3.2、3.3 アプライアンスモデル 52xx

注意:

[1] Resiliency Platform 3.5 で環境をアップグレードした場合、NetBackup マスターサーバー 8.1.1 はサポートされなくなり、切断状態になります。Resiliency Platform と通信するには、NetBackup マスターサーバーを 8.1.2 以降にアップグレードする必要があります。

p.3 の「一般的な制限事項」を参照してください。

p.25 の「ブラウザの互換性マトリックス」を参照してください。

p.4 の「仮想アプライアンスの互換性マトリックス」を参照してください。

NetBackup Cloud Catalyst を使用した仮想マシンのディザスタリカバリの互換性マトリックス

表 1-19 と表 1-20 に、NetBackup イメージを使用したディザスタリカバリの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-19 仮想化技術の互換性マトリックス

仮想化技術	バージョン
VMware	vCenter Server 6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0 ESXi 5.5 U3、6.0、6.0 U1、6.0 U2、6.5、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、6.7、6.7 U1、6.7 U2、6.7 U3、7.0

表 1-20 NetBackup コンポーネントの互換性マトリックス

コンポーネント	バージョン
NetBackup マスターサーバー	8.2、8.3
NetBackup Appliance	Appliance 3.2 と 3.3 アプライアンスモデル 52xx
自動 DR/NetBackup Cloud Recovery Server (CRS) を使用した NetBackup CloudCatalyst	8.2、8.3

注意:

- NetBackup マスターサーバーはセキュアな通信でサポートされます。

Orange Recovery Engine への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

- NBU 8.3 の MSDP クラウド機能を使用してバックアップされたイメージを使用した AWS へのリカバリはサポートされません。
- Netbackup Cloud Catalyst を介した仮想マシンの互換性の理由により、RHEL 7.7 以上はサポートされません。これらの OS では AWS VMImport がサポートされないためです。これがサポートされるのは、RHEL 7.6 までです。詳しくは、『[VM Import/Export の要件](#)』と『[VM Import/Export ユーザーガイド](#)』を参照してください。

p.3 の「[一般的な制限事項](#)」を参照してください。

p.25 の「[ブラウザの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

p.4 の「[仮想アプライアンスの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

Orange Recovery Engine への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-21 Orange Recovery Engine への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

サポート対象の物理マシン
RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0
CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5
SLES 12.2、12.3、12.4、15
Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- Orange Recovery Engine にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- UVP VMTools ソフトウェアパッケージが Windows 物理マシンにインストールされている必要があります。
- Windows 作業負荷物理マシンの場合、PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- EVS (エラスティックボリュームサービス) 対応の SCSI デバイスタイプはサポートされません。
- Xen Hypervisor に基づく ECS タイプはサポートされません。

- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。

AWS への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

「AWS への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス」に、AWS への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-22 AWS への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

サポート対象の物理マシン
RHEL 6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0
CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7
SLES 12.2、12.3、12.4、15
Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- AWS にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- Windows 作業負荷物理マシンの場合、PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- AWS にリカバリする場合、地域に中国を指定できますが、認められていません。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。

Azure への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

「Azure への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス」に、Azure への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-23

サポート対象の物理マシン
RHEL 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0
CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7
SLES 12.2、12.3、12.4、15
Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- Azure にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。
- Windows 作業負荷物理マシンの場合、PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、NetworkManager-config-routing-rules パッケージがインストールされている必要があります。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。
-

vCloud Director への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

表 1-24 vCloud Director への物理マシンのディザスタリカバリにおける互換性マトリックス

サポート対象の物理マシン
RHEL 6.3、6.4、6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、6.10、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0
CentOS 6.5、6.6、6.7、6.8、6.9、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4、7.5、7.6、7.7
Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019

注意:

- vCloud Director にリカバリする際に使用するレプリケーション技術は、Veritas Resiliency Platform Data Mover です。

- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、**NetworkManager-config-routing-rules** パッケージがインストールされている必要があります。
- Windows 作業負荷仮想マシンの場合、PowerShell バージョン 2.0 以上 3.0 未満の場合、3.5 から 4.5 の範囲内の .NET バージョンが必要です。PowerShell バージョン 3.0 以上の場合、必要な最小の .NET バージョンは 4.5 です。
- 複数の NIC が搭載された RHEL ホスト (バージョン 7.0 以上) には、**NetworkManager-config-routing-rules** パッケージがインストールされている必要があります。
- リハーサル操作とリハーサルのクリーンアップ操作は、物理マシンから vCloud Director へのリカバリでサポートされません。
- マルチパスはターゲット側の仮想マシン内ではサポートされません。

ブラウザの互換性マトリックス

表 1-25 に、ブラウザの互換性マトリックスを一覧表示します。

表 1-25 ブラウザの互換性マトリックス

ブラウザ	バージョン	コメント
Microsoft Internet Explorer	11 以降	JavaScript: 有効になっています。 Cookie: 有効になっています。
Mozilla Firefox	33.x 以降	JavaScript: 有効になっています。 Cookie: 有効になっています。
Google Chrome	38.x 以降	JavaScript: 有効になっています。 Cookie: 有効になっています。

注意事項:

ポップアップブロッカーをオンにした場合は、フィルタレベルの設定が「中」以下であることを確認します。

Veritas Resiliency Platform コンポーネントのバージョンの互換性

Resiliency Manager と IMS (Infrastructure Management Server) が常に同じバージョンであることを確認します。

Replication gateway が Resiliency Manager と IMS よりも古いバージョンである場合、レプリケーションではテイクオーバー操作のみが許可されます。その他の操作はサポートされません。